

妖怪「アマビエ」を描いて！ 塗り絵をして！ コロナウイルスを退治しよう！

みなさん、「アマビエ」を知っていますか？ 「アマビエ」は、天災の前などにあらわれたとされる妖怪です。1846年 日本が江戸時代のころ、肥後（今の熊本県）にあらわれたという時の様子は、かわら版（今で言うところの新聞）となり、その様子は挿絵入りで紹介されました。そのときの資料が、現在も京都大学附属図書館に残っています。

↓ 江戸時代のかわら版（京都大学附属図書館 蔵書）



原文

「肥後国海中え毎夜光物出る。所の役人行見るに、づの如く者現す。私は海中に住、アマビエと申す者也。當年より六ヶ 年の間諸国豊作也。併し、病流行、早々私写し人々に見せくれと申て、海中へ入けり。」右写し役人より江戸え申来る写也。 弘化三年四月中旬 』

現代語訳（今の言葉に直すと）

「毎夜、海の中に光る物体が出没していたため、役人が見に行ったところ、その光る物体が姿をあらわした。その者は、役人に対して「私は海中に住む『アマビエ』という者だ。」と名乗り、「今年から6年、全国で豊作が続くが、疫病（恐ろしい病気）も流行する。私の姿を描いた絵を、人々に早々に見せよ。」と予言めいたことを告げて、海の中へと帰って行った。

その姿形は、人魚のようでもあり、ウロコがある胴体、足は無く、尾びれがあり、長い髪をして目は赤くひし形、鳥のような口ばしのような口があり、耳は人間のようと言われています。

このコロナウイルス騒動で、京大附属図書館が「疫病の際に絵を描いて見ると良いとされる妖怪アマビエを（自由に閲覧、活用できるように）置いておきますね。」とツイートして話題になりました。

そんなわけで…、江戸時代には「アマビエ」を描いたり、絵を持ち歩いて、お守りにするのが流行したようなのですが…、今また「アマビエ」を描いたり、絵を持ち歩いたり、飾ったりすることが、ブームになりつつあります。

そこで！ みなさんも、「アマビエ」を描いたり、塗り絵をしたり、してみませんか？

添付した好きな原画をプリントして、好きな色で塗ってみてください。

もちろん、みなさんのオリジナル「アマビエ」も大募集しています！！

完成した作品を郵送してもらえたら、ホームページの「王子美術館」のコーナーに掲載したいと考えています。みなさんの絵や塗り絵で、コロナウイルスを撃退しましょう！

(塗り絵の原画は、王子特別支援学校の美術科の先生方が描きました。)

塗り絵の完成イメージ



シール貼り・なぞりの完成イメージ

